



赤江っ子通信



No. 3

宮崎市立赤江小学校 校長 久島 孝昭

H28. 4. 26

今週末からゴールデン・ウィークが始まります。各家庭でもいろいろと予定を立てておられるかと思えます。天気がよいことを願っています。子どもたちも、新しい学年になり約1か月が経過しました。環境が変わり、緊張した毎日を送ってきたと思います。ようやく学級にも慣れ、緊張もほぐれてきたとともに、疲れも出てくるころではないでしょうか。疲れが出てきた子どもについては、この連休中に休養をしっかりとらせていただき、連休明けからも元気で登校できるようにお願いします。

○ 授業参観、学級懇談、PTA総会への出席、ありがとうございました。

23日(土)の午後、本年度初めての授業参観、学級懇談を行いました。新しい学年・学級になっての子どもたちの様子はいかがだったでしょうか。子どもたちは多少緊張した様子も見受けられましたが、しっかりと授業を受けていたと思います。学級懇談では、保護者の皆さんと担任との顔合わせ、役員決めをしていただきました。その後、PTA総会があり、役員改選や27年度の報告、本年度の事業計画や予算についての審議をしていただきました。学校、学級それぞれに役員さんが決まり、本年度のPTA活動がスタートします。子どもたちの健やかな成長のために、ご協力をよろしくお願いします。

○ フッ化物洗口について

PTA総会の時に、資料「フッ化物洗口の概要について」をもとにフッ化物洗口について概要を説明させていただきましたが、出席されていない方もいらっしゃいましたので、改めて説明させていただきます。資料と一緒に、この説明をお読みいただき、ご理解ください。実施希望の有無について、本日、用紙を配付しますので、よろしくお願いします。

○ はじめに

宮崎市の小中学校では、平成22年度末から順次フッ化物洗口を導入しています。フッ化物洗口とは、子どもたちのむし歯を予防するために、定期的にフッ素の化合物であるフッ化物(フッ化ナトリウム)を水道水で薄めた液体を口に含み、ぶくぶくうがいさせることです。宮崎市では商品名「ミラノール」と呼ばれる薬剤を使用しています。

各学校では、フッ化物洗口をするかしないかについて、保護者や児童生徒に判断してもらっており、昨年度は70校で92.4%の児童生徒が実施しました。本校でも92.2%の子どもたちが実施しました。これまでの状況を見ると、宮崎市の12歳の子ども一人平均むし歯数とむし歯有病者率(むし歯のある子どもの割合)は次のようになっています。

	平成23年度	平成27年度
平均むし歯数	1.22本	0.74本
むし歯有病者率	41.7%	26.9%



どちらも年々減少しており、本校においても平成25年度から本格的に実施し、3年を経過したところですが、本校のむし歯有病者率は、平成25年度57.8%から平成27年度42.2%と減少しています。それでは、この後、資料「フッ化物洗口の概要について」に沿って説明をさせていただきます。

1 導入について

宮崎市の小中学校ではフッ化物洗口を平成22年度末から順次導入してきましたが、実施にあたっては、平成22年9月の宮崎市議会市民経済委員会で審議され、その過程で次の4つの意見・要望が出さ

れました。①実施に際しては、保護者全員に対して、具体的方法、期待される効果、使用するミラノール薬剤について十分に説明した上で、その同意を得て行われたい。②学校、保護者、学校歯科医の三者合意を得て、それぞれの相当数の割合の賛成があることを判断基準とし、過半数を超える程度の同意では実施しないこと。③校長は学校教職員に対して、職務命令を出すなど、従事することを強要することがないように、留意されたい。④保護者の同意を得られず、一緒にフッ化物洗口を行わない児童生徒が、いじめに遭ったり、差別を受けたりすることのないよう、十分に配慮されたい。

学校では、この4点に留意してフッ化物洗口を実施するようにしています。

2 学校におけるフッ化物洗口の必要性

フッ化物洗口は、家庭でもできますし、フッ素塗布であれば歯科医でもしてもらうことが可能です。しかし、家庭でのフッ化物洗口は継続が難しいと言われており、歯科医でのフッ素塗布はフッ化物洗口に比べてより費用がかかります。そこで、乳歯から永久歯への生え替わりが盛んで、むし歯になりやすい時期に、学校でフッ化物洗口を行うことは、継続的に実施でき、希望される全ての家庭に平等にむし歯予防の機会を提供でき、有効な方法だと考えられています。

3 フッ化物活用の効果

フッ化物活用には「①歯の表面を強くする ②歯の補修を助ける ③むし歯菌の力を抑える」の3つの効果があり、結果的にむし歯予防、むし歯治療費の削減につながります。子どもたちも痛い思いをしなくて済みます。

4 フッ化物洗口の安全性と危険性

安全性や有効性については、厚生労働省や日本歯科医師会などの多くの専門機関が認めたうえで推奨しています。実施にあたっては子どもたちの安全を第1に考え、慎重に行いますが、危険性については2つあり、共通理解を図って対応しています。

- ① 慢性中毒……フッ化物を長期にわたり摂取した場合、歯のフッ素症(斑状歯：歯に褐色の斑点や染みができる症状)や骨のフッ素症(骨が硬化し、手足の指関節に痛みを生じる)になることがあります。斑状歯は体重20kg(5～6歳児程度)の人で1日2mg以上摂取を生後7～8年間、毎日継続した場合に発症すると言われてしています。宮崎市で実施するフッ化物洗口は週1回0.45～0.67mgを小学1年生から中学3年生までです。早く始める子どもでも幼稚園や保育所入園後からですので、発症の可能性が極めて低いようです。
- ② 急性中毒……一度に多量のフッ化物を摂取した場合に起こり、症状として悪心や嘔吐、下痢等を引き起こすことがあります。体重20kgの人でフッ化物40mg(宮崎市の洗口液量8.9人分)から急性中毒の可能性が出てきます。適切な洗口における少量の誤飲では急性中毒になることはありませんが、危機管理の面から、万が一、多量の洗口液を飲み込むことも想定し、カルシウム飲料(フッ素が胃等から吸収されることを抑える効果があります)を準備しています。

本校としましては、本年度も子どもたちの歯の健康を守るために、安全にフッ化物洗口を実施していきたいと考えております。本日、フッ化物洗口の希望の有無について用紙を配付させていただきますので、提出をよろしくお願ひします。洗口を希望しない子どもには、水道水によるぶくぶくうがいさせます。

なお、用紙提出後に、途中で実施をやめたいと考えられた場合や、逆に実施していなかったが途中からでも実施したいと考えられた場合は、担任にお知らせください。中止あるいは実施するようにします。昨年度は9割を超える子どもたちが実施しましたが、本年度、希望者が少ない場合には、実施について検討をさせていただきます。

本年度は、毎週木曜日の1校時が始まる前の朝の時間に実施する予定です。実施開始は希望の状況を確認して、5月26日(木)からと考えていますので、よろしくお願ひします。